



今年も大盛況！

## リサイクルブックフェア

11月17日（土）、18日（日）に鴨池公民館体育館で「鹿児島市立図書館リサイクルブックフェア」を開催しました。

リサイクルブックフェアとは、市立図書館や公民館図書室で利用の少なくなった図書や保存期限の経過した雑誌を市民の皆様は無償で提供するイベントです。本年度は、約36,000冊の図書を準備いたしました。

当日は、早朝から整理券の配布を待つ方の行列ができ、本に対する関心の高さを改めて実感しました。2日間で約4,000人の来場者でにぎわいました。大きな混乱もなく、スムーズに終わることができ、皆様の協力に感謝しています。

来年度も11月に開催予定です。新たな本との出会いや思いがけない本の発見を楽しむ機会にさせていただきたいと思います。



【「リサイクルブックフェア」の様子】

いろいろなサンタさんが…

## クリスマス絵本展

クリスマスが近付いてきました。市立図書館では、24日（月）まで、クリスマスやサンタクロースを題材にした絵本の展示・貸出を行っています。

クリスマスに起こった奇跡を描いた作品やのんびり屋やあわてんぼうのサンタクロースが登場するお話など、楽しい作品がいっぱいです。



疑問を解決！

## 図書館見学

11月も、たくさんの小学生が図書館見学に訪れました。

説明の際には、蔵書冊数や図書館で働く人の仕事内容など、熱心にメモを取る子どもたちの姿が見られます。夕方や休日には、保護者と一緒にも再度来館し、本を借りていく子どももたくさんいます。

見学をとおして、本や図書館への関心がさらに高まっているようです。



DECEMBER

12月

## 行事予定



## 一般書貸出ベスト 10

(11月23日現在)

日	曜	行事等
1	土	がらがらどんおはなし会 キッズタイム(錦ヶ丘幼稚園「はらぺこあおむし」)
8	土	キッズタイム(読み聞かせ男子)
9	日	図書館シネマ「富士ファミリー ~2017~」
14	金	あかちゃんのためのおはなし会
15	土	キッズタイム「がらがらどんクリスマス会」
22	土	キッズタイム(りとるコアラ)
23	日	冬休み子ども映画会①
24	月	クリスマス読書バトル 冬休み子ども映画会②
26	水	冬休み子ども映画会③
27	木	冬休み子ども映画会④
28	金	あかちゃんのためのおはなし会
29	土	年末・年始休館(～1/3)

- |   |             |       |
|---|-------------|-------|
| 1 | かがみの孤城      | 辻村 深月 |
| 1 | 下町ロケット[4]   | 池井戸 潤 |
| 3 | 人魚の眠る家      | 東野 圭吾 |
| 4 | ラプラスの魔女     | 東野 圭吾 |
| 4 | 素敵な日本人      | 東野 圭吾 |
| 4 | おらおらでひとりいぐも | 若竹千佐子 |
| 4 | ナミヤ雑貨店の奇蹟   | 東野 圭吾 |
| 8 | コンビニ人間      | 村田沙耶香 |
| 8 | マスカレード・ナイト  | 東野 圭吾 |
| 8 | 西郷どん! 前編    | 林 真理子 |
| 8 | 旅猫リポート      | 有川 浩  |
| 8 | 未来          | 湊 かなえ |

※ ランキングの詳細は、図書館  
ホームページにも掲載してあり  
ます。



## 「がらがらどんクリスマス会」のお知らせ

15日(土)、14:00から「がらがらどんクリスマス会」を行います。クリスマスに関する絵本の読み聞かせや人形劇などを予定しています。



## 特別整理期間における休館のお知らせ

**1月21日(月)～2月1日(金)**

は特別整理期間のため、市立図書館と公民館図書室は休館します。図書の返却は、ブックポストをご利用ください。

## 新着おすすめ本の紹介

## 生老死の進化

著 者：高木 由臣  
出 版 社：京都大学学術出版会  
請求記号：461.1タ

すべてのヒトはいずれ死ぬが、明確な死をもたない生物も存在する。一体何がこの違いを分けたのか。生物の基本単位である細胞を基点に、生物の多様な生のあり方と、その進化の鍵を握る暴走性と抑制系のせめぎ合いを考える。

セーターの編み方  
ハンドブック

出 版 社：日本ヴォーグ社  
請求記号：594.3セ

2本の棒針を動かして編んでいく棒針編み。編み図の見方から、表目と裏目だけで編めるセーター、憧れのアラン模様や編み込み、ベストやカーディガンまで、無理なく編めるよう詳細に解説します。

## フーガはユーガ

著 者：伊坂幸太郎  
出 版 社：実業之日本社  
請求記号：Fイサ

仙台市内のファミレスで、常盤優我は語り出した。双子の弟・風我のこと、決して幸せでなかった子供時代のこと、そして、彼ら兄弟だけの特別な「アレ」のことを…。不思議で、切ない、長編小説。